

みのEDO

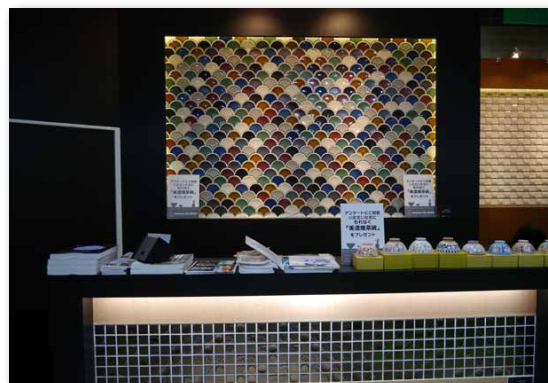
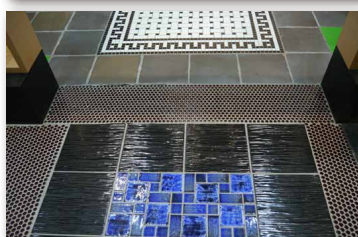
発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com

特集 建築・建材展

セラミックタイル美濃 2017 —おもてなし美濃焼タイル—



タイルの色が映える黒を基調とした展示ブース。照明をあてられたタイルがきらきらと光る。



アンケートに回答した方には美濃焼茶碗をプレゼント。



開会式では、多治見市長 古川 雅典氏が挨拶。「日本だけでなく、タイルが世界にうって出られるように積極的にいってほしい」。

3月7日（火）～10日（金）の4日館、「建築・建材展 2017」（第23回）が東京ビッグサイト（東京都江東区）にて開催された（主催：日経新聞社）。住宅・店舗・ビル用の各種建材や設備機器、ソフトウェア、工法などを幅広く紹介する大規模な建築総合展であり、今年の出展企業数は295社（出展小間数764小間）。

「建築・建材展」は「日経メッセ 街づくり・店づくり総合展」の一部となっており、ほかに商空間のデザイン・ディスプレイの情報を発信する「JAPAN SHOP」や「ライティング・フェア」など5つの展示会と3つの特別企画を同時開催。会期中は20万人以上の来場者を集めた。

多治見市美濃焼タイル振興協議会が出展する「セラミックタイル美濃 2017」の各社出展ブースを紹介する。



- ◆(株)アイコットリョウ 「住まいにやきものの強さと美しさを」をテーマとし、戸建て住宅向けの外壁タイルを展示。木造住宅外壁タイル張りシステム・スタップ工法として施工資材までを提供する。「ShanghaiBlue」は上海れんがとよばれる中国の古い青れんがをスライスしたもので、経年による風合いがある。



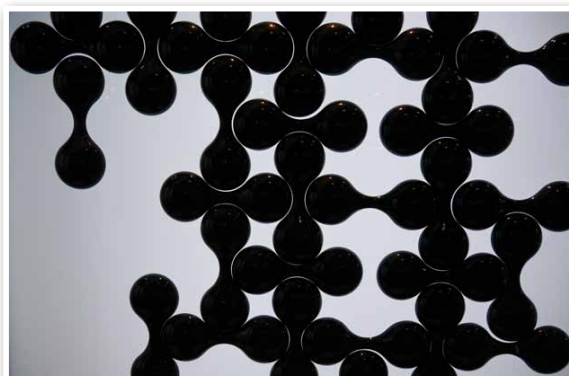
- ◆(株)エキシズ 今回初の試みとして今までに制作した特注品を展示。リッツカールトンホテルなどで使われた特注タイルやオーダーベンチを施工写真とともに紹介。新製品のハチの巣をイメージした六角形のタイルは、3色ある外側の枠と内側部分の組み合わせで多様な表現が可能。



- ◆(株)カネキ製陶所 釉薬を不均一にかけて風合いを出した「エクリアル」、セメントのとりりとした質感を表現した「ブリーク」は、ともに乾式でありながら、湿式成形の豊かな質感を追求。ほか、新製品のモザイクタイル「ルーラル」は和の色味で、水彩のような淡い色調。



- ◆加納製陶(株) それぞれ木々としずくをイメージした「KOMOREBI」と「SIZUKU」を展示。食器の技術を取り入れて制作し、その複雑な形状に自然な光がさしこむことにより、美しい陰影をつくる。壁面だけでなくセラミックルーバーのようにも使用できる。





丸万商会



オザワモザイクワークス



鈴製陶

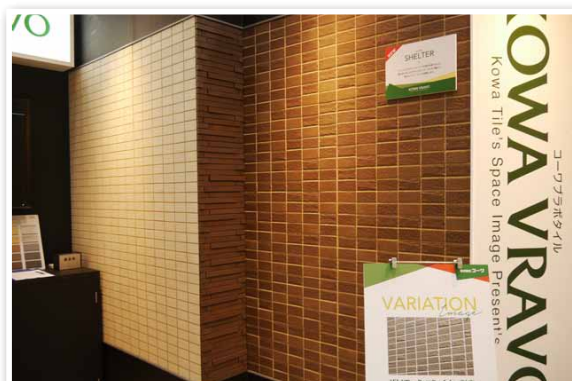


フォトフレーム（丸万商会、写真左）

他社とのコラボレーションにより製作した箸置き（オザワモザイクワークス、写真右）

◆(株)オザワモザイクワークス／
鈴製陶（株）／(有)丸万商会

モザイクタイルのオザワモザイクワークス、主に外装タイルや大判・厚みのあるタイルを手がける鈴製陶、商社でありオリジナルタイルも製作する丸万商会の合同展示。それぞれの持ち味を生かし、調和がとれた空間となっている。テーブルの上に三社のタイルが雑貨的に置かれているのは、「手にとって焼きものとしてのよさを感じてもらえるように」とのこと。



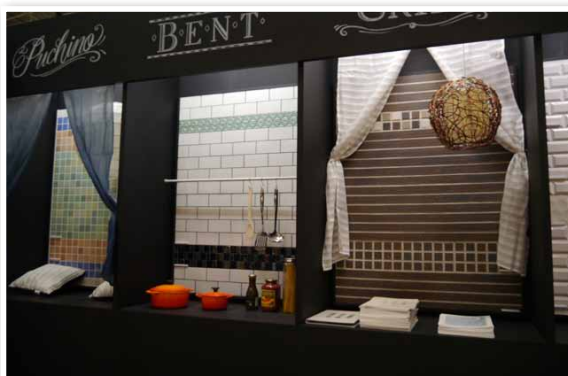
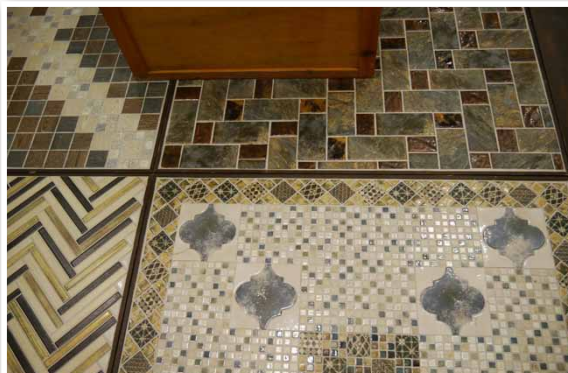
◆(株)コワ

形状と色調を掛け合わせることで設計者の感性を引き出すことをテーマとしたタイルを展開。外装タイル「シェルタ」は面状を9種、色を6色揃える。「ナロークロス」は細いラインが刻まれた外装タイルで、縦横のラインを組み合わせにより多様な表情を演出。



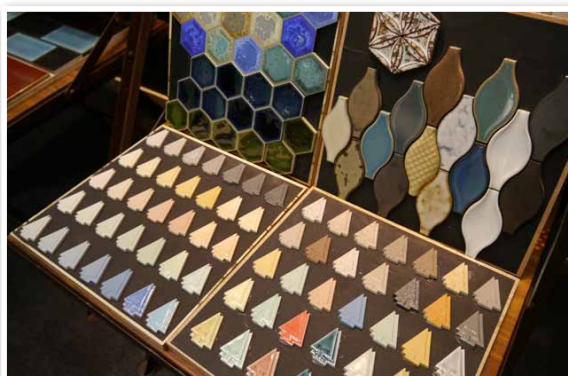
◆三協製陶(株)

壁と床にタイルが隙間なく並ぶ空間。長年の輸出事業の中で培った色彩感覚を活かし、独自の技法を用いて作られたタイルは手づくりの風合いがあり、デザインは多様でありながら、全体に一貫した個性が表れている。展示パネルから好きなものを選ぶアンケートを実施。



◆杉浦製陶(株)

全体は黒を基調とし、チョークアート作家による手書き文字でカフェ風に演出。キッチン、寝室などをテーマとし、小さな5つの空間をつつらえる。また、ブースの外壁には六角形タイル「Hexaglaze」を展示。和紙や着物をイメージした「12色mix」200㎡を展示期間中限定販売。



◆(株)セラメッセ

ブースの外壁はカラフルな「Vi-タ-Min（ビタミン）」をデザイン的にカットして張り、ポップアートをイメージ。外装タイルは色の組み合わせをシュミレーションできるシステムを採用。今後はDIYのサポートなどのサービスを展開予定。



◆(株)谷口製陶所

6月に発売予定の150角タイルは、深みのある青や緑、黄色をそろえ、和のイメージ。茶碗やお皿などの食器で使われる日本古来の亀甲の釉薬を用いて、焼きもののがもつ本来の素材感を伝える。「ヴィッセラ」は、ラスター彩を含む5色展開でアートの使う。





◆ 玉川窯業(株)

和室の小上がりを演出。土の風合いを生かした無釉のタイルは、畳の空間にもしっくりと合う。編んだような立体感がある「オリナス」は白と黒、茶系統の色があり全部で7色、細長く厚みの違うタイルを組み合わせる「千本格子」は5つの組み合わせがある。



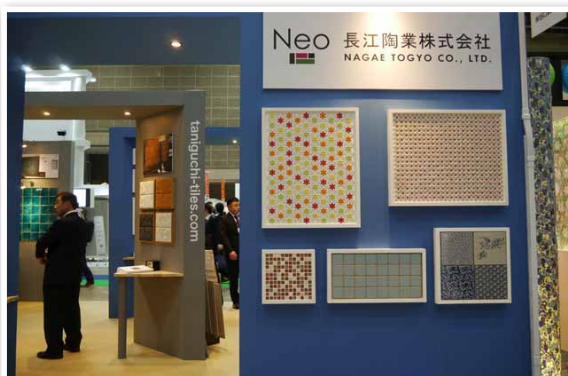
◆ (株)TNコーポレーション

「アメリカの豊かなタイル空間」がコンセプト。「キッチンやお風呂だけでなくタイルの文化を伝えたい。DIYなど日常でタイルを使ってほしい」との思いを込める。今年のカタログの表紙も飾った「睡蓮」は、南の島をイメージさせる明るい緑色が印象的。



◆ 長江陶業(株)

多種多様なモザイクパネルが壁にかけられた明るい空間は、名城大学建築学科の谷田研究室と協力して制作。11月から打ち合わせを重ね、一部のパネル制作を学生たちが手がけた。「こういう作業を通してタイルの存在を認識してほしい」と虎澤社長。



◆ 名古屋モザイク工業(株)

ガラスモザイクタイルが張られた5つの大きな輪が目をはく。白を基調とした空間には、モザイクから大判まで、多種多様な新製品が並び。銅版レリーフのオーダータイルは磁器タイルの上に銅版をかぶせたもので、職人による手作り。





◆ ニッタイ工業(株)
岐阜工場

焼きものづくりの原点に立ち返り、手づくり感のあるタイルを展示。「窯艶彩」は昔ながらのれんがの風合いを表現。厚さを変えたものを並べて張ることにより、光によって違った表情を見せる。「陶粗壁」はざらざらとした表面が土の質感を伝える手づくりタイル。



◆ (株)日東製陶所

「茶 Bar」として和風の Bar を演出。タイルを張ったカウンター、さらに全面タイル張りの引き戸もあり、室内の様々な空間にタイルを使う提案をする。「らくらくりーん」は油性マジックも簡単に消えるメンテナンスに優れた床タイル。



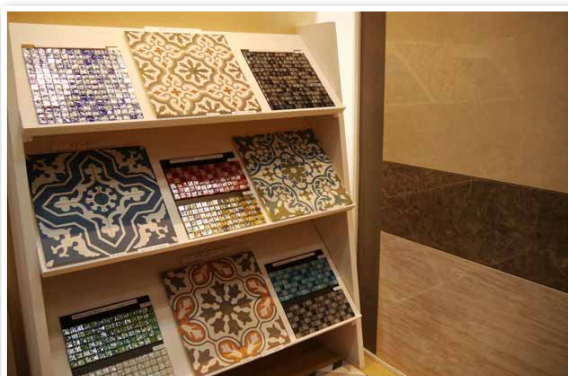
◆ (株)ニットー

イタリアから輸入した床材は、天然の木材をスキャンし、インクジェットでプリント。30 パターンがあり、同じ模様が繰り返すことなくリアリティがある。水に浸った部分もありアンティークな雰囲気。室内とバルコニーの段差をなくすバリアフリーの設備も紹介。



◆ (株)丸喜

大理石をリアルに表現した 600 × 600 ミリの大判のセラミックタイル「カンブリアン」は、床と壁の両方に使用可能。レトロなデザインが描かれたセメントタイルは多種類あり、様々に組み合わせで自由に張り、カフェ風の空間を演出できる。





◆丸澤(株)

ブースの外観は4つの面状があるガラスタイル「ランタナ」が全面に張られスタイリッシュなイメージ。内部に入ると一転し、古いれんがや石材を使ったタイル、木目調のタイルが張られ、アンティークな雰囲気。大理石を模した大判床タイルも展示。



◆ミツル陶石(株)

天然石材やアンティークれんがを中心に、建築材料・ガーデニング資材・外構造園資材の輸入卸販売を行う。立体造形を施す機械により、タイルやれんが、石にデザインを加工するサービスを展開。小ロットから受け付けているので、個人のオリジナルの制作も可能。



初日7日の9:30から「セラミックタイル美濃」の出展者が集まり、開会式を開催。多治見市美濃焼タイル振興協議会会長 隅谷建彦氏、同企画運営委員 宮川憲市氏、多治見市長古川雅典氏、衆議院議員 古屋圭司氏（秘書の方が代理出席）、多治見市議会議員 加藤元司氏が順に挨拶し、出展者とともにイベントの成功を祈った。開場の10:00を迎えると、来場者がぞくぞくと訪れた。

「セラミックタイル美濃」は会場の中央付近に展示ブースを構えた。今年は22社が出展。これほどの数の会社が集まって出展する業界は他になく、存在感とタイルの多様性が伝わるのではないと思う。昨年オープンした「多治見市モザイクタイルミュージアム」の紹介スペースも設けられ、注目を集めた。

タイル関係では、ほかに名古屋セラミックス（株）、リビエラ（株）（JAPAN SHOPでの出展）、ダイワセラミックス（株）などが出展していた。



リビエラ(株)



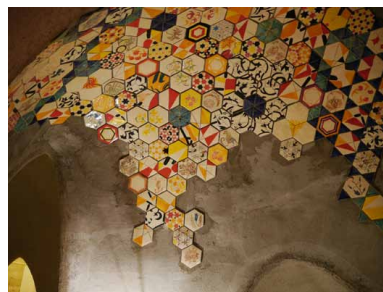
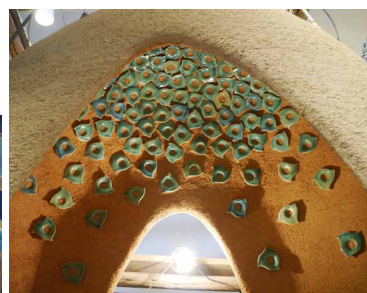
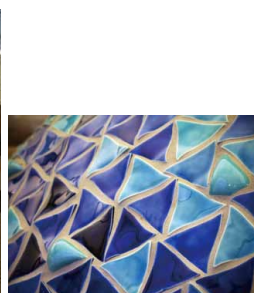
会場受付の脇には、「セラミックス足湯」を設置。



名古屋セラミックス(株)

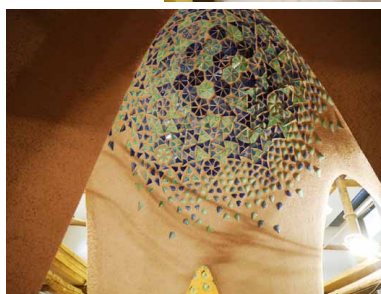
「つくるガウディー—塗る、張る、飾る!」展 公開制作 —ガウディから得たタイルの多様性と可能性—

INAX ライブミュージアム（愛知県常滑市）では、10 周年特別展「つくるガウディ Making GAUDI」を開催中（3 月 31 日（金）まで）。この特別展では、ガウディの建築に着想を得た建築物を、建築家・日置拓人氏、左官職人・久住有生氏、タイル職人・白石 普氏の 3 人により公開制作。来場者は職人たちが目の前で作業し、建築物が徐々に作り上げられる過程を目にすることができる。完成が間近に迫った 2 月 25 日の公開制作の様子をレポートする。



一見、アフリカの土の教会のよう。ガウディの活躍した時代を意識し足場も木材とした。ドーム内の天井（写真右）はそれぞれ異なる仕上げ。同じタイルでも張り方を変えることにより、違った表情を見せる。

コロニア・グエル教会。昨年制作メンバーでバルセロナのガウディ建築を巡った。



第 2 会場に展示されている田中裕也氏による「カサ・パトリヨ」の実測図面。

コロニア・グエル教会の 1 階部分を制作

展示会場は 2 つに分かれていて、公開制作は「つくるガウディー—塗る、張る、飾る!」と題し、「土・どろんこ館」で開催。第 2 会場となる「世界のタイル博物館」では「つくるガウディー—実測で読み解く」として、約 40 年にわたりガウディの建築を実測し、手描きによる図面の制作を続けてきた田中裕也氏の実測図面を展示。両方の展示により、ガウディの姿が立体的に立ちのぼる構成となっている。

ヘルメットを装着し、会場に入って迎えてくれるのは 6 つのドームで構成された建築物。ガウディによる「コロニア・グエル教会」の未完の 1 階部分をつくるというコンセプトの元、残されたスケッチを手がかりに日置さんが 4 分の 1 の構造体を設計。仕上げは久住さんと白石さんに任された。

タイルの常識をくつがえす!?

外壁には、鮮やかな青、緑色のタイルが張られ、照明が反射してきらきらと光る。タイルは丸かったり、真ん中に穴が開いていたり、ひしゃげていたり、見たことのない形。白石普さんがデザインし、INAX ライブミュージアムの「ものづくり工房」で制作した。最初はガウディのようにタイルを割って使おうと考えたが、曲面にも張ることのできるタイルをつくることを思いついた。裏面に丸みがあるタイルは、角度をつけたり、平らに張ったり、多様な張り方ができる。

「(来場した方は)今まで思っていたタイルと違う、と言って驚かれますね」と学芸員の水野慶子さん。会場では「きれいなね」と、写真を撮る姿もよく見られた。

奥のドームの天井には、1 枚ずつ違った絵付けがされた六角形のタイルが張られている。これは白石さんの工



二人の作業風景に「ジャズのセッションみたいだね」という声も上がる。その日の手順は仕上げについて話し合いながら決めていく。ガウディも職人と話し合いながら、作業を進めていたと聞く。

タイルと土壁～素材について



しずくのような形のものは、モロッコでつくられている「ルーザ」とよばれるタイルを元に考案。片面が丸く（凸面）になっていて、釉薬を塗る面を変えることにより2パターンができる。

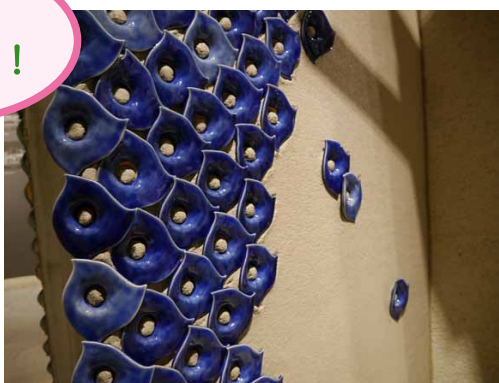


久住さんによる土壁の色見本。「テストピースは数え切れないくらいつくった」(久住さん)。その日の作業に使う左官材は、現場で土や砂、スサを調整してつくる。



今回の完成部分！

タイルの中央の穴から土が盛り上がっているのに注目。タイルが重なり合い、ウロコのようにも見える。



房のスタッフ・吉永美帆子さんの手により常滑の花や鳥、バルセロナをイメージして描かれた。

公開制作スタート

白石さんと吉永さんが段ボール箱から新聞紙に包まれたタイルを出し、一つひとつ床に並べていく。白石さんは床にタイルを並べながら、張り方を考えている。

今回の作業は一番手前のドームの外側の仕上げで、土壁を塗った後にタイルを張るという手順で行なう。久住さんが手際よく左官材を鏝で塗っていく。最初は薄く、2度目は1センチ程度の厚みに塗り、土壁は完成といえる状態に。「(仕上げが) きれいだから、タイルを張りたくなくなっちゃう」と白石さん。

ある程度乾かした後、タイル張りの作業を開始する。下からタイルを瓦のように少し重ねて張っていく。「張る」というより、少し力を込め土壁に押し付けるように

し、丁寧に「埋め込む」という印象。タイルの中央の穴から土壁の土が盛り上がるのが面白い。タイルの色により、建築物に華やかさや、楽しさ、わくわく感が加わる。作業は閉館時間近くまで続いた。

3月中旬に完成。特別展の期間中の公開の予定だったが好評につき、「完成！ 常滑ガウディ」として5月まで公開されることが決定した。

従来のタイルの形状や張り方から離れ、新たな方法を生み出した今回の企画。タイルの可能性を広げる機会となったのではないだろうか。

INAX ライブミュージアム 10 周年特別展
「つくるガウディ」第2弾

「完成！ 常滑ガウディ」

会期：4月15日（土）～5月30日（火）

第29回技能グランプリ全国大会 2017 ―― 初参加のタイル張り競技、静岡県・杉原選手が優勝！



優勝（金賞）の杉原選手（静岡県）



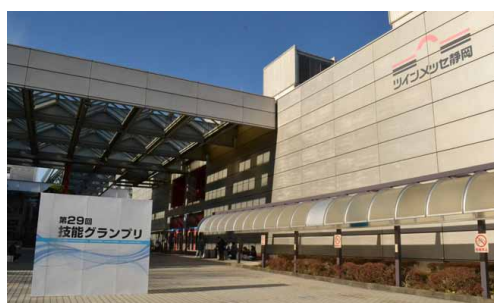
銀賞の戸田選手（千葉県）



銅賞の勝呂選手（東京都）



技能グランプリ「タイル張り」競技のもよう



会場のツインメッセ静岡

第29回技能グランプリが、厚生労働省・中央職業能力開発協会・（一社）全国技能士会連合会の主催で2月10日（金）～13日（月）までの4日間にわたって、静岡県のツインメッセ静岡、キラメッセぬまづなどの施設をメイン会場に行なわれた。大会テーマは「世界に誇る日本の〔技〕。匠の職人が集う熱き祭典」。「技能士の技能の一層の向上を図るとともに、その地位の向上と技能尊重気運の醸成に資すること」を目的とする。今回、主催団体からタイル業界団体への強い勧めもあり、（一社）日本タイル煉瓦工事工業会がそれに応える形でタイル競技が初めて行われることとなった。

競技は、11日（土）～12日（日）の2日間。年齢制限はなく「1級技能士資格があり、都道府県職業能力開発協会会長又は都道府県技能士会（連合会）会長から大会会長に推薦された者」という出場資格のもと、30職種514名がその技量を競い合った。タイル張り職種は出場選手7名、ツインメッセ静岡を会場に熱戦が繰り広げられた。

「タイル張り」職種の競技概要

■出場選手

千葉県 戸田廣幸 戸田タイル工業
東京都 村上清八 (株)愛知
東京都 勝呂高也 (有)丸勝工業

神奈川県 土屋忠宣 横浜タイル工房

静岡県 杉原敬介 K S タイル

静岡県 瀬川顕吾 瀬川タイル

島根県 渡部順也 (有)渡部タイル

■競技時間

「タイル張り職種」の競技時間は、標準時間10時間30分（打切時間11時間）。1日目9時～12時、13時～16時45分（15分休憩）、2日目9時～12時、13時～14時（標準時間）～14時30分（打切時間）という日時程で行なわれた。

■競技のポイント

課題作品の制作には、「積上げ張り（だんご張り）」、他にモザイクタイル張り、床タイル張り、タイルの切り物加工、ブロック・れんが積み等の工法が盛り込まれており、特にタイル張りの伝統工法である積上げ張りやアールを表現する竹割りの張付けには高度の技能が求められる。他にもタイル張りに必要とされる多様な技能・技術の要素が取り入れられており、熟練の技に注目。（完成例参照）

■審査結果・入賞者

金賞：杉原敬介（静岡県／K S タイル）

銀賞：戸田廣幸（千葉県／戸田タイル工業）

銅賞：勝呂高也（東京都／(有)丸勝工業）

（以上、敬称略）